

JICA生にパワーポイントを使用し、水上消防署水難特別救助隊の概要、資器材説明をしてほしいという依頼でした。これはいい勉強になると思い、通訳さんもらってやるということでしたが、頼らず、英語でやろうと決めました。結果、勉強の成果もあり大変満足してもらえたものになったと思っております。そのほかにもUSJで働く多くの外国人の方々が住む寮、海岸通りハウスの消防訓練を英語で行うなど積極的に取り組みました。

それらの経験から、英語でやるのに失敗したくないため嫌でも勉強し、それは自分の知識となること。英語でできるようになってから日本語でやるのがとても簡単に思える等の効果もあることが分かりました。

私は、英語が苦手だから関係ない、あの人は英語が得意だからあの人に任せようというのではなく。

このような経験を色々な人にしてもらい、英語で対応できるという自信に繋がればいいのかなと思います。また、私自身も今後は英語のみならず、その他の言語にもチャレンジしていきたいと思えます。グローバルな消防士を目指して。

優秀賞  
きつかけ



高嶋 楓  
福島消防署  
消防士

「もう生きていくの、しんどい…」私が高校1年生の時、そう言うて目の前に立ちすくむ母の姿がありました。そんな母の姿を見て、人が生きる気力を失う瞬間を見ました。

「なんでそんなこというん？お母さんおらんかったら私も生きていかれへん！しつかりしてや！」高校1年生の私にとつて、その出来事はとても悲しく、とても辛いものでした。しかし、私の言葉は母に届き、それからの母は毎日、前向きに人生を歩んでいます。

このことがきつかけで「人を救う、人に生きる希望を与えられる仕事に就きたい」という想い、私は、消防の道を目指しました。

あの出来事から数年後、目指していた消防の道に進み、今では、消防隊の一員として毎日、様々な現場を経験しています。

ある日、私は一件の救助事案に出場。その事案はこれからの私の、いや女性消防士として、進むべき「きつかけ」を教えてください。出来事でした。指令の内容は、「二十代女性 室内閉じ込め 応答なし」。現場に向かうと、窓の隙間からお風呂で倒れている女性を発見。関係者の了承のもと、鍵を破壊。室内に進入すると、女性は、服を着たまま浴槽につかり、ぐったりしていました。倒れていたのが、女性ということもあり、同じ女性である私と救急隊の先輩と二人で対応することになりました。浴槽からかかえて出そうとすると、「死なせて！」。そう叫びながら突然暴れだし、それをなんとか落ち着かせながら、着替えを任された私は、はじめてその女性と向き合いました。

私と歳が近かったこともあり、「なにがあつたん？もしよかつたら話してみてくれへん？」。さりげなく聞いてみると、「そうやってちゃんと生きてるやん！私には何も無いねん！」。彼女は、私を指差し、叫びました。私は、かける言葉を間違えたのでしょうか？

「そんな事言わんでよ…落ち着いて話してみてくれへん？」彼女は、私が同じ女性だということもあつたのでしょうか。泣きながら

辛いことを話してくれました。しばらく話すと落ち着いたのか、救急車で病院に向かうことになり、救急車に乗り込む前に、「ありがとう。女の人がおつてくれて良かった」彼女が、つばやくように言った言葉が、私に「きつかけ」を教えてくださいました。特に気の利いたことも言えず、どちらかと言うとただ彼女の言葉を聞いているだけの私。しかし、彼女の言葉は、「女性消防士」として、相手に寄り添うことが出来た。そう感じさせられる一言でした。（そう）言つなければ女性特有の柔らかな対応です。

今はまだ、未熟な私です。現場に行つても助けを待つ方々への対応は固くなり、何も言葉にできないことが、ほとんどです。しかしながら、表情、言葉、そして女性という部分で、どんなに壮絶な現場であつたとしても、相手に寄りそう気持ち、前向きになつてほしい気持ち。それを伝えていける消防士になろうと思います。

その時その時の瞬間で、その人の人生の「きつかけ」になる温かい、柔らかな消防士を目指して。

